

ASSOCIATION OF PROFESSIONAL



ATHLETECAMP2026 実施報告

2026年2月24～25日

目次

- P1 : ATHLETECAMP2026を開催する目的とその意義
- P1～2 : ATHLETECAMP2026の詳細
- P3 : 参加選手コメント
- P3 : ATHLETECAMP2026を終えて

ATHLETECAMP2026を開催する目的とその意義

ATHLETECAMP2026は、アスリートの成長と地域社会への貢献を目指して開催されます。本キャンプでは、参加者が競技力を高めるだけでなく、スポーツを通じてコミュニケーション能力やリーダーシップ、協調性を養う機会を提供します。

特に、多様な競技や異なるバックグラウンドを持つアスリート同士（ボートレーサー・パラアスリート）が集い、互いの経験や価値観を共有し合うことで、想像を超えた新たな発見や刺激が生まれます。この交流は、競技の枠を超えた化学反応を引き起こし、個人としてだけでなく、集団としての成長やイノベーションにもつながります。こうした出会いと対話から生まれる新しい可能性こそが、ATHLETECAMP2026の大きな魅力のひとつです。

また、ATHLETECAMP2026は、スポーツの楽しさや素晴らしさを広く発信し、次世代を担う若者の育成や地域の活性化にも貢献します。参加者とスタッフが一体となって安全で有意義な時間を過ごすことで、社会全体がより健康で活力あるものになることを期待しています。スポーツの力で人と地域をつなげ、新しい未来を切り開くことが、ATHLETECAMP2026の大きな意義です。

ATHLETECAMP2026の詳細

参加者

- ◆ パラアスリート・パラスポーツ団体スタッフ・P.UNITED（8つのパラスポーツ競技団体が共同で立ち上げたプロジェクト）・COM-MIX・パラスポーツサポートセンター・ボートレーサー（愛知・静岡支部所属選手）・選手会東京役職員（代表・常務理事含む）・選手会碧南役職員（所長含む）・西端小学校児童・西端小学校教員・(株)日本レジャーチャンネル・(株)エキスプレススポーツ・蒲都市（鈴木市長含む）・碧南市（小池市長含む）・常滑市

：合計158名

ATHLETECAMP2026 ①実施プログラム ②目的 ③感想

①実施プログラム：社会貢献活動（西端小学校5年生2クラスとの交流）

②ウェルカムレース、パラスポーツ体験（水泳、射撃、カーリング）、およびモーターボート体験交流会を通じ、参加児童に対してモーターボートおよびパラスポーツの理解促進を図った。

③本プログラムにおいて、西端小学校5年生2クラスの児童は、ボートレーサー及びパラアスリートとの交流を通じて、多様性および共生社会の重要性について認識を深める機会を得た。

障害の有無に関わらず協働する体験を共有することによって、児童の視野の拡張、共感性の育成、および挑戦意欲の向上が確認できた。さらに、競技者の実践的活動の見学および交流経験は、児童が自己目標や将来像を描く契機となり、自己肯定感や社会的スキルの向上にも寄与したものと考えられる



ATHLETECAMP2026の詳細

ATHLETECAMP2026 ①実施プログラム ②目的 ③感想

- ①合同プログラム：アスリート対象のメディア対応研修・交流イベント「自らの競技を知ってもらい、発展させるには」
- ②メディア対応能力の向上や、ボートレーサーおよび他アスリートの意識改革・モチベーション向上が狙い
- ③アスリート向けメディア対応研修では、実際のインタビュー演習および模擬記者会見を通じて、多様な状況下で適切な回答力と態度の習得が促進された。また、交流イベント「自らの競技を知ってもらい、発展させるには」では競技種目横断型グループディスカッションを実施し、参加者間で経験・価値観を共有することで新たな視点を獲得した。研修内容には、報道機関に対する発言時の注意事項や表現指導、さらにSNS時代におけるファン獲得戦略の重要性に関する認識向上も含まれます。マンダラチャートを活用した目標設定ワークショップでは、短期および長期課題の可視化が図られ、自己成長への意欲喚起につながった。多様なアスリートとの交流を通じて得た刺激や学びは、今後の活動に有効活用できると考える

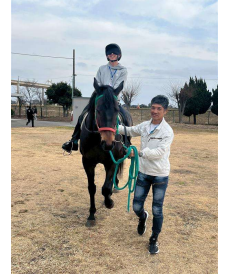
①モーターボート体験会

- ②パラアスリートと一緒にペアボートに乗ることで、障がいのある方々が普段は体験できないスピード感を味わうことができ、新たな刺激によって意識改革・モチベーション向上が狙い
- ③パラアスリートの方々がイベントに熱心に参加し、風や水音、ボートのダイナミックな動きを全身で感じた。ボートレーサーやスタッフは率先してサポートし、安全面にも十分に配慮されており、安心して楽しめた。体験後には感想を語り合ったり、お互い励まし合う様子も見られ、交流が広がっていたことが印象的であった。このイベントを通じて、挑戦することの大切さや困難を乗り越える力の素晴らしさを改めて実感した。挑戦や感動を共有しながら、参加者の笑顔や前向きな姿勢が特に印象に残った

①パラスポーツ（乗馬、射撃、カーリング、水泳）体験

②障がいがあつてのスポーツを体験することによる気づき

- ③障がいのある方々と一緒にスポーツを体験することで、普段、気づかないようなさまざまな考え方や体幹の重要性について理解が深まった。障がいがあつても努力できることや、乗馬では馬との一体感が必要不可欠であること、またコミュニケーションや互いに支え合う姿勢が自然と生まれることにも気づいた。こうした体験は、多様性を尊重する社会について学ぶ上で貴重な機会となった



参加ボートレーサーのコメント

後藤理事

「パラアスリートの方々にペアボートを体験してもらえるのは嬉しいです。特に、車いすの方はスピードを感じる機会が少ないと聞きますが、乗艇後に『楽しい』と言っただけだと、ボートレーサーとして誇らしく感じます。パラアスリートと接する中で、『ハンディキャップ』という言葉の前向きなものに変えていけたらと思っています」

佐藤支部長

「顔なじみのパラアスリートも増え、今年もいろいろな話ができました。ワークショップでは多くのアイデアが出ていて、楽しく参加できました」

本田選手

「初めての参加でしたが、競技のことからプライベートまでたくさん話すことができ、貴重な経験になりました。皆さん明るく、障害についても率直に話してくださり理解が深まりました。パラ射撃や車いすカーリングを体験し、体が不自由でも、競技に本気で向き合う姿に大きな刺激を受けました」

ATHLETECAMP2026を終えて

ATHLETECAMP2026に参加し、多様な競技や異なる背景を持つアスリートたちと直接交流できたことは、ボートレーサーやパラアスリートにとって非常に貴重で意義深い経験となった。競技力の向上はもちろん、コミュニケーション能力やリーダーシップ、協調性などのヒューマンスキルも磨くことができた。この経験はスタッフにとっても同様であり、改めてこのイベントの開催が有意義であったと感じている。

また、多様な価値観や経験を持つ参加者同士で意見交換や情報共有を行う中で、新たな発見や刺激を受け、個人の視野が広がっただけでなく、チームとしての結束力や連帯感も深まった。こうした交流がもたらす効果は、競技生活に限らず社会活動や日常の人間関係構築にも大きな財産になると確信している。

さらに、地域貢献の一環として西端小学校の児童たちに喜んでもらえたことも印象に残っている。児童たちの輝く目や笑顔から、交流の意義と地域貢献の重要性を実感した。スポーツを通じて地域社会とのつながりを改めて感じ、次世代育成の大切さを再確認した。安全で充実した環境の中、多くの方々と過ごせた時間に深く感謝している。

ATHLETECAMP2026が掲げる「スポーツを通じて人と地域を結ぶ」という理念に共感し、今後もその精神を持って積極的に活動を続けていきたい。

今回のATHLETECAMP2026は、多くの関係者やアスリートから継続を望む声が寄せられた一方で、碧南訓練所で開催される最後のイベントとなる予定である。こうした感謝と期待を胸に、今後も得た学びやつながりを大切に、新たな挑戦へとつなげていきたいと考えている。

今回の経験で得た知見や人脈は、ボートレーサーやパラアスリートの今後の競技人生においてかけがえのない資産であり、新たな挑戦への原動力にもなっただろう。これからもこの経験を生かし、さらなる努力と自己成長を続けていくと確信している。また、スタッフ一同も同じ志を持つ仲間と切磋琢磨しながら、より良い未来を創造する一員として貢献できれば幸いである。

